

石川の巨樹

金沢市市街地の巨樹を巡る堂形のシイノキ

大地にしっかりと根をおろして生育している巨樹のパワーを感じたい、巨樹に逢って癒やされたいと思っっている方が、多いのではないのでしょうか。

今回は、金沢市市街地の巨樹を「しいのき迎賓館（旧石川県庁）」をスタートしゴールとする、半日単位のモデルコースを紹介します。

★ 半日コース（午前の部）

① 堂形のシイノキ（国指定天然記念物）

このシイは、前田利常時代の庭園樹で、天明の伐採を免れたとも、加賀騒動の主役大槻伝蔵の邸宅から移植したともいわれています。



堂形のシイノキ

ここには、かつて京都三十三間堂にならった堂形の的場があり、こう呼ばれています。推定樹齢400年。

↓金沢21世紀美術館横を歩き、金沢市役所側に向かいます。

② ケヤキ・クロマツ

ケヤキの根元は一部空洞でサルノコシカケが寄生していますが、夏場は多くの葉をつけ樹勢は旺盛です。クロマツの樹皮には、痛々しい傷が見られますが、これは戦時中に松

ヤニを原料として、戦闘機用の燃料を採取した跡です。

↓金沢歌劇座方面に向かいます。

③ 旧制金沢一中名残のモミの樹

昭和25年市道拡幅工事で伐採が計画されると、地元住民の強い保存要望で伐らずに残ったモミです。

↓中村記念美術館横方面に行き、「歴史の小径」の階段を上ります。

④ スタジイ等の自然林

原生林を左に見ながら木道を行くと、スタジイの巨木群が目前に現れます。ここは、周りと違う空気が漂いパワーをもらえます。

↓一度戻って、県立美術館裏の小径を通り、国立工芸館前に至ります。

⑤ 大ケヤキ

国立工芸館と県立歴史博物館の間にあります。樹木医による最近の診断では、根周りの踏みつけに配慮した対策が必要とのことでした。

↓石川護国神社を目指します。

⑥ ゴヨウマツ

鳥居をくぐった境内には、「願掛けの五葉松」と呼ばれるゴヨウマツがあり、姿・形の良さは日本一と説明看板に書かれています。昭和45年に樹木医が診断して病巣

のコブを取り除くと、もとの元気な姿に戻ったため「甦りの五葉松」と命名されました。

↓兼六園横の百万石通りを下り、石浦神社に向かいます。

⑦ 石浦神社樹林（金沢市保存樹林）

金沢最古の神社と言われています。最近では広坂稲荷神社として縁結びの御利益があることで有名です。また、社叢は金沢市保存樹林です。

↓しいのき迎賓館に向かい、午前の半日コースはこれで終了です。

★ 半日コース（午後の部）

続く「午後の部」は、しいのき迎賓館から尾山神社に向かいます。

① イスノキ・キクザクラ

尾山神社には、藩祖前田利家とお松の方が祀られています。境内にはイスノキ（蚊母樹）Ⅱ別称ヒヨノキⅡがあります。キクザクラは、昭和45年に枯死した兼六園菊桜の折れた枝を枯死する前に採取し、接ぎ木したものです。

↓アトリ才前の交差点を渡り、日本銀行金沢支店裏に向かいます。

② タブノキ

同銀行裏通りの高い塀の向こう側に、タブノキの上部のみが見えます。↓毎月用水を聖霊病院方面に向かい、貴船神社に向かいます。

③ アカマツ

貴船神社は、縁結びと縁切りの両方に功德のある神社といわれ、香林

坊方向から参拝すると縁切り、反対方向からだ縁結びとなります。

↓武家屋敷方面に向かい、大野庄用水沿いに行きます。

④ エノキ（金沢市景観樹）

梶邸の用水護岸から大きなエノキが伸びています。

↓武家屋敷を西に向かって行き、等雲寺に向かいます。

⑤ クロマツ（金沢市保存樹）

等雲寺に隣接する加賀藩八家の長家下屋敷の庭内に、大きなクロマツがそびえたっています。

↓武家屋敷内を歩いて、犀川大橋を渡り神明宮に向かいます。

⑥ 神明宮の大ケヤキ（金沢市保存樹）

5年ほど前は少し樹勢が弱くなっていました。周囲の踏圧防止の垣根の設置と支柱による補助等で樹勢は回復しました。推定樹齢800年。



神明宮の大ケヤキ

柿木畠を通って、しいのき迎賓館に戻り、午後の半日コースは終了です。

このように、金沢市中心部を巡るだけでも、多くの巨樹や巨木林に出逢えますので、ウォーキングのモデルコースとして周辺の施設と併せて散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

（石川県巨樹の会 間明弘光）